

# 令和元年度 指定管理鳥獣捕獲等事業

## 基本評価シート

(鳥取県 生活環境部 緑豊かな自然課)

## 基本評価シート（ニホンジカ）

### 1. 事業の基本情報

事業名（※1）	平成31年度鳥取県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定調査業務		
	令和元年度鳥取県指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等事業業務		
	令和元年度鳥取県ハンター養成スクール運営業務		
	令和元年度ジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援事業委託業務		
都道府県名	鳥取県	担当者部・係名	緑豊かな自然課
担当者名	杉村	担当者連絡先	0857-26-7978
捕獲実施事業者	（一社）鳥取県猟友会 （認定を受けている・ 受けていない）	予算額（※2）	70,813,741円
		予算額の内捕獲に 要する経費（※3）	58,891,195円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

#### ○令和元年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
2,100頭	2,351頭	112%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
48,788頭（平成30年度末）	年間捕獲目標9,000頭以上	令和5年度に14,026頭 （平成23年度から半減）
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
656頭（速報値）	6,075頭（速報値）	0頭

#### ○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

- ・ 狩猟期間の延長（11月1日から翌年の2月末日まで）
- ・ くくりわなの輪の直径の禁止の解除
- ・ 1日当たりの捕獲数制限の解除（※施行規則改正によりH29から全国で解除）
- ・ 有害鳥獣捕獲に対する捕獲奨励金の交付（通年）

## 2. 令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>本県のニホンジカは、県東部を中心に生息密度が高く、生息域が拡大しており、農林業被害や森林生態系の攪乱が深刻化している。今後も被害拡大の恐れがあり、捕獲の強化が緊急の課題である。</p> <p>よって、主な生息域である県東部を中心に、県中部・西部においても本事業を実施して捕獲強化を図り、個体数抑制と分布拡大防止を図る。</p> <p>なお、鳥取県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画においても、本事業の実施により県境奥山の捕獲強化を推進する旨が位置づけられている。</p> <p>※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置づけも記載する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	<p>令和元年5月16日～令和2年3月16日 （うち、捕獲を行った期間は、令和元年7月3日～12月31日）</p>
実施区域	<p>県東部区域（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町） 県中部区域（倉吉市、三朝町、琴浦町） 県西部区域（米子市、大山町、南部町、伯耆町、江府町、日野町、日南町）</p> <p>シカの分布拡大と被害の顕在化を未然に防ぐため、県全域の主に県境に接する奥山を実施区域とした。県東部はニホンジカの主な生息域。県中部・西部は今後の分布拡大・個体数増加が懸念されている地域である。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入 ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<p>主に有害捕獲を担う市町村と、捕獲状況の情報共有や、クマ錯誤捕獲時の対応等、連携・協力して実施した。</p>
事業の捕獲目標	<p>（ 112%達成） ＝（ 2,351頭 実績値 ）／（ 2,100頭 目標値）</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り <input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>【わな猟】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input checked="" type="checkbox"/> 箱わな <input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>※1：各種猟法の定義はマニュアル9ページ参照 ※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 個体の身体の一部（耳、尾など） <input checked="" type="checkbox"/> 写真（詳細を記載： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>※複数チェック可。</p>
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <p><input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。</p> <p>※複数チェック可</p>

環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：クマの錯誤捕獲防止のため、捕獲したシカの速やかな処理や、クマ痕跡確認時はわなの作動を一定期間停止する等の措置を講じることとしている。イノシシについては捕獲許可（個体数調整）を付与している。) <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>捕獲従事者に対する安全管理研修の実施、緊急時の連絡体制の整備等の事故防止対策が図っている。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】  捕獲従事者数： 199人  (内訳)  正規雇用者： ー 人、期間雇用者： ー 人 日当制： ー 人</p>

### 3. 令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標達成】	評価： 実施計画は目標頭数を2,100頭として策定し、捕獲事業の契約頭数は2,091頭となった(頭数の差は積算の精査による。)。捕獲実績は2,351頭となり、目標達成率は112%となった。
	改善点：引き続き、予算額を踏まえて目標頭数を設定し、捕獲事業の適正な実施により目標達成に努める。
【実施期間】	評価： 前年度より1か月早い7月上旬に捕獲を開始し、目標達成に必要な実施期間を確保した。例年に比べ10月以降の捕獲数が多く、12月中に契約頭数に達したため、捕獲作業を終了した。
	改善点：引き続き、十分な実施期間を確保できるよう、実施計画策定や契約手続き等の早期実施に努める。
【実施区域】	評価： 主な生息域である県東部区域では、前年を約150頭上回る2,084頭の捕獲があった。県中部・西部区域でも前年を約70頭上回る267頭の捕獲実績が得られた。
	改善点：個体数抑制と分布拡大防止のため、次年度以降も県全域の奥山地域での事業実施を継続する。
【捕獲手法】	評価： 12月末に事業終了し、積雪が非常に少なかったため、わなによる捕獲が85%となった。メスの比率はわな猟39%、銃猟61%であり、メスジカ捕獲には銃猟が効果的と思われる。
	改善点：どちらの捕獲方法にも利点があるため、引き続き銃・わな両方での捕獲を継続する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価： 実施区域が県境付近の奥山地域である上、東部から西部まで県全域に渡るが、十分な捕獲従事者を配置し捕獲実績を確保できた。
	改善点：この体制を次年度以降も継続する。また、中長期的な捕獲体制の維持のため、ハンター養成スクール等により狩猟者の確保・育成に取り組む。
【個体処分】	評価： 捕獲個体2,351頭のうち、食肉加工施設への持ち込みが794頭(34%)、自家消費が800頭(34%)と有効活用された。
	改善点：捕獲個体の多くが有効活用されており、搬出可能なものは引き続き施設への持ち込みや自家消費を進める。なお、県全域での捕獲数増加と有効活用のためには、獣肉加工施設や焼却施設の充実(地域偏在の解消等)が必要である。
【環境配慮】	評価： 捕獲地が奥山であり622頭(26%)が埋設処理された。
	改善点：引き続き受託者に適正な処理の徹底を指導する。
【安全管理】	評価： 捕獲従事者に対する安全管理研修の実施、緊急時の連絡体制の整備等の事故防止対策が図られている。
	改善点：引き続き受託者への安全管理の徹底を指導する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 (特になし)	

#### 4. 全体評価

今期は県全域の奥山地域において、前年より1か月（前々年より2か月）早い7月上旬から捕獲を開始した。10月以降の捕獲が例年に比べ多く、12月末までの6か月間で目標の2,100頭を超える捕獲実績を上げ、本県のシカ捕獲に大きく寄与した。

モニタリング調査によると、県中部・西部にもシカの分布拡大や森林植生の衰退が見られることから、次年度以降も県全域の奥山での捕獲を継続し、有害捕獲や狩猟と合わせてシカの捕獲強化を進めることとする。

##### ■ニホンジカ捕獲数の推移

（単位：頭）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1 速報
有害捕獲	3,587	5,646	5,370	4,149	3,846	4,676	6,075
狩猟	1,404	822	528	951	1,034	712	656
指定事業	—	—	199	2,174	1,827	2,131	2,351
計	4,991	6,468	6,097	7,274	6,707	7,519	9,082

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

#### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

平成30年度の県内のシカ捕獲数は7,519頭であり、そのうち本事業による捕獲は28%を占めた。令和元年度のシカ捕獲数は更に増加し、管理計画の目標頭数である9,000頭を初めて達成した（速報値）。本事業による捕獲数も過去最多となった。

シカ個体数の抑制のためには、目標頭数9,000頭以上の捕獲を継続することが必要であることから、本事業を継続し更なる捕獲強化を図る必要がある。

#### 4. 必須となる記録項目

##### (1) データの整備状況

##### ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報（ 	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	※わな猟は「のべ作業人日数」のみ把握している（広域・長期間の事業であり、稼働日数の正確な把握は困難）

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

##### イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	捕獲位置の5 kmメッシュ地図は、翌年度の調査業務の中で作成している（評価書提出時期（6月末）までの作成は労力的に困難なため添付できない）。CPUE と SPUE の5 kmメッシュ地図の作成は、必要性も含め、受託者との調整が必要（必要なデータは概ね収集している）

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数<sup>※1</sup>: 1,031 人日

事前調査人日数概数<sup>※2</sup>: - 人日 (把握していない)

出猟 (捕獲作業) 人日数: 1,031 人日

項目	令和元年 (事業年度の値)	平成30年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (銃猟) のべ人日数	1,031人日	1,530人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数<sup>※1</sup>: 10,292 人日

事前調査人日数概数<sup>※2</sup>: - 人日 (把握していない)

出猟 (捕獲作業) 人日数: 10,292 人日

項目	令和元年 (事業年度の値)	平成30年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わな基×日数) 【参考】のべ人日数	(不明) 基日 10,292人日	(不明) 基日 9,438人日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。



イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和元年 (事業年度の値)	平成30年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	355頭	527頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②目撃数	746頭	1,434頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	61% (216/355)	52% (272/527)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	25% (89/355)	18% (96/527)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(銃器)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り	7頭	38人日	0.184 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少	0.737 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟	348頭	993人日	0.350 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少	0.723 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUEは前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和元年 (事業年度の値)	平成30年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	1,996頭	1,604頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	39% (772/1,996)	40% (649/1,604)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	24% (471/1,996)	16% (259/1,604)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(わな)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数 <sup>※1</sup>	CPUE <sup>※2</sup>
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	1,972頭	(不明) 基日	(不明) 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 箱わな	21頭	(不明) 基日	(不明) 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	3頭	(不明) 基日	(不明) 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	— 頭	— 基日	— 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUEは前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

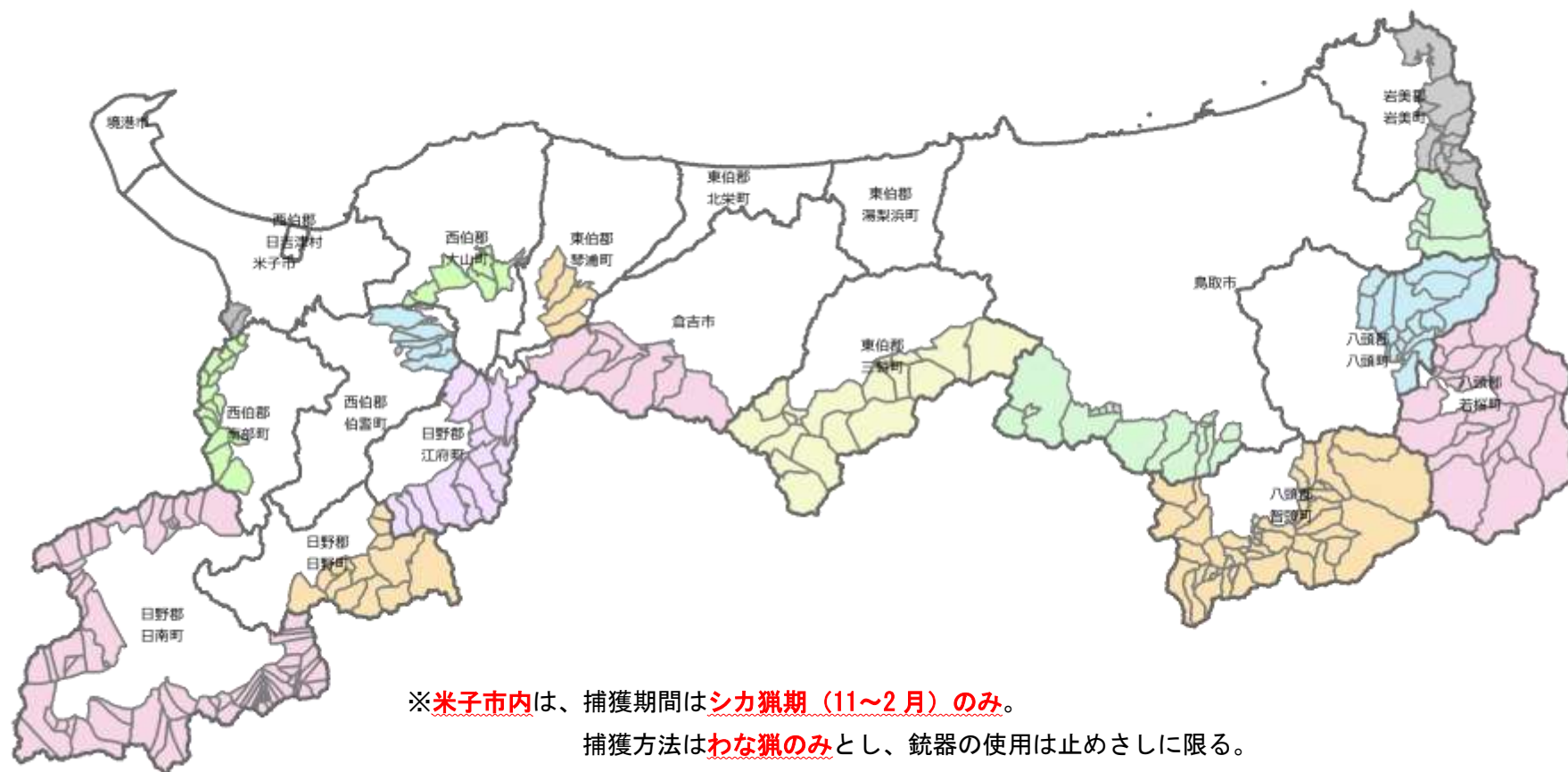
処理にかかる人工概数: — 人・時間 (把握していない)

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数: 1,594 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲の証拠物として、写真と尾の提出を義務付けている。

## 令和元年度 指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等事業 実施区域図



(参考) 平成30年度の実施区域からの変更点

- ・大山鳥獣保護区と重複していた区域を削除した。

(別紙7)

## 鳥取県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

### 1 狩猟者の現状や課題等

- 中山間地域における有害鳥獣の被害は深刻であるが、現場の対策を担う狩猟者は高齢化等により減少しており、特にシカ・イノシシの捕獲の即戦力となる若手や銃猟者の確保・育成は喫緊の課題となっている。
- このため当県では、補助事業等により、狩猟免許取得や射撃練習・技能講習に係る費用の支援等を進めてきたところ。
- その結果、近年、新規狩猟免許取得者は、若手を中心にわな猟、銃猟ともに増加傾向にあり、高齢化が進んでいた狩猟者の若返りが進みつつある。
- 一方、狩猟免許取得後に、どのように捕獲を始めたら良いか分からないとの声もあり、捕獲技術の習得・向上が課題となっている。
- また、当県の重要施策であるジビエ利用の推進に当たっても、適切に放血等を行った捕獲個体の安定供給が重要であり、捕獲と処理技術を持った狩猟者の育成が求められている。

### 2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

- 狩猟免許取得後の新人ハンターを捕獲の即戦力として育成することにより、捕獲体制の強化、ジビエ利用の拡大等を図るため、「ハンター養成スクール」を開校し、捕獲技術から獲物の解体・ジビエ利用までの実践的な技術を身につけるための講習や現地実習を行った。
- なお、本スクールは平成28年度から実施しており、今年度が4期目。
  - ①実施期間：令和元年7月～令和2年3月（講義は9～11月）
  - ②実施回数：全8日（カリキュラムは次ページのとおり）
  - ③受講者数：46名

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

### 3 2の取組に対する評価と今後の課題等

#### ■評価

- これまでの受講実績は、のべ157名（H28：35名、H29：30名、H30：46名、R1：46名）。平成30年度から年齢制限を廃止（H28, 29は50歳未満）。幅広い年齢層から、募集定員35名を超える応募があり、高いニーズが伺えた。
- 受講生からは、受講後、初めて捕れた、捕獲数が増加したとの声が多数あり、アンケートの解答からも高い満足度が伺えた。
- これまでの卒業生は、捕獲等の担い手として各方面で活躍中（地元猟友会で狩猟や有害捕獲に参加、ジビエ加工施設の新規開設、若手狩猟者団体の立ち上げなど）。

#### ■今後の課題等

- 満足度・効果ともに高いため継続実施とするが、より効果的な事業とするため、これまでの受講生の要望も踏まえてカリキュラムの一部見直しを検討する（わな製作実習の追加等）

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

### 4 その他

(特になし)

注：特記すべき事項があれば記入すること。

## 令和元年度 鳥取県ハンター養成スクール 全カリキュラム

回	日程 [開催場所]	講習・実習テーマ	主な講習・実習内容	わな猟 コース	銃猟 コース
第1回	9/15(日) [倉吉市]	わなによる捕獲技術① 銃器による捕獲技術①	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わな猟と銃猟の基本技術と安全管理</li> <li>● 箱わな・くくりわな設置実習(室内)</li> </ul>	○	○
第2回	9/21(土) [倉吉市]	銃器による捕獲技術②	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大型獣の銃猟に必要な装備と道具</li> <li>● 模擬銃による射撃実習(室内)</li> <li>● 銃猟の安全管理、違反・事件事例解説</li> </ul>	-	○
第3回	9/29(日) [倉吉市・三朝町]	わなによる捕獲技術②	<ul style="list-style-type: none"> <li>● くくりわなの捕獲手順と安全管理</li> <li>● 安全な保定と止めさし</li> <li>● わな猟のための山歩き(実習)</li> </ul>	○	-
	10/6(日) [倉吉市・三朝町]			○	-
第4回	10/20(日) [鳥取市国府町]	銃器による捕獲技術③	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 銃猟の捕獲技術と安全管理</li> <li>● 銃猟のための山歩き(実習)</li> </ul>	-	○
第5回	10/26(土) [岡山県真庭市]	射撃練習 (湯原国際射撃場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 射撃場における安全管理やマナー</li> <li>● 静的射撃・動的射撃の基礎理論・実技講習</li> </ul>	-	○
第6回	11/16(土) [鳥取市国府町]	銃猟実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 銃猟(巻き狩り)実習</li> <li>● 銃猟実習まとめ</li> </ul>	/	○
第7回	11/17(日) [鳥取市鹿野町]	ジビエ利用のための 衛生管理・イノシシ 解体実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジビエ利用のための衛生管理</li> <li>● 止めさし、血抜き等実習</li> <li>● イノシシ解体実習、ジビエ試食など</li> </ul>	○	○

## 鳥取県におけるジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援に係る評価報告

### 1 本事業で実施した取組実績

#### (1) 狩猟捕獲経費支援の取組

- 受託者名：(一社)鳥取県猟友会
- 捕獲頭数

獣種	支援を行った捕獲頭数	狩猟全体における捕獲頭数(速報値)
イノシシ	189	2,008 (H30: 2,346)

※ニホンジカは対象としなかった。

#### (2) 処理加工施設における取組

- 受託者名、捕獲頭数等

受託者名(施設名称)	持込を行った狩猟者数(人)	受け入れた捕獲個体数(頭)	廃棄物処分量(kg)
シンボタンの会(イノシシ食肉解体処理施設)	16	66	1,180.0
わかさ29工房	16	75	1,168.2
ちづDeer's	4	13	289.5
日本猪牧場	20	80	169.6
大山ジビエ振興会(大山ジビエ工房)	1	10	213.6
計	55(のべ57)	244	3,020.9

※講習会等は実施していない。

注1：(1)の取組実績として、受託者名、ニホンジカ及びイノシシ別に支援を行った捕獲頭数実績及び狩猟全体における捕獲頭数等を記入する。

注2：(2)の取組実績として、受託者名(施設名称)、講習会等の指導内容、開催回数、参加人数、持込を行った狩猟者数、受け入れた捕獲個体数(ニホンジカ及びイノシシ別)及び廃棄物処分量等を記入する。

### 2 1の取組による効果や評価と今後の課題等

#### ■効果・評価

- 平成30年度までは、狩猟期間中のイノシシ捕獲に対する支援制度が無い市町が多かったため、本事業により捕獲推進とジビエ利用推進の両面で一定の効果があった、
- 令和元年度は、豚コレラ対策として狩猟期間中のイノシシ有害捕獲に対する奨励金制度が新設され、狩猟期も有害捕獲を行う狩猟者が増加したため、本事業の利用は減少した。
- なお、シカについては、本事業より高額の有害捕獲奨励金が通年で支払われ、狩猟捕獲が見込めないため、シカを本事業の対象とする施設は無く、シカの捕獲強化にはつながらなかった。

#### ■今後の課題等

- 上記の豚コレラ対策奨励金は令和元年度限りのため、今後も本事業の利用が増えると思込めることから、狩猟者への周知を図るとともに、対象施設の追加も検討する。

注：1の取組による効果や取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価等を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

### 3 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。